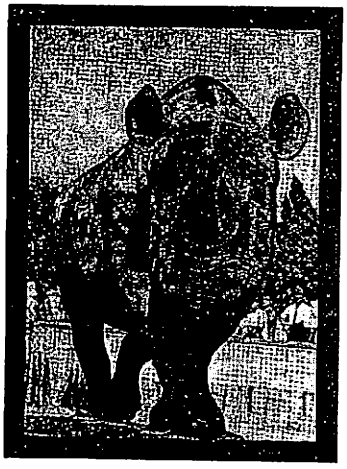
サイタロウの死

西山登志雄
中川志郎

★はじめてのクロサイ

サイタロウが上野動物園にきたのは昭和27年8月3日のことで，当時推定年齢5歳でした。林園長（当時企画係長）がアフリカに出張，ケニアのハートレイ野獣園に飼われていたものを購入して連れて帰ったのです。現地での呼び名はハリーで，アメリカ映画「キリマンジャロの雪」に出演したこともあります。戦前戦後を通じ，日本の動物園にはじめてのクロサイでした。



★いたずら好きだが善良

いらい大病もせず，比較的丈夫であり，また「これがクロサイだ」と感じさせる立派な体格の持主でしたが，10月26日，私たちの看護も及ばず，あっけなく不帰の客となってしまいました。飼育年数12年2カ月，サイの寿命から考えて，まだまだこれからというときに逝ってしまったのは残念です。

性格的には，大変つきあいやすいサイで，気兼ねなく接することができました。ただ鉄棒をへし折る，コンクリートの重い水槽をひっくりかえす，など力にまかせてのイタズラは数多く，復旧作業に頭を痛めたのも，今はなつかしい思い出となりました。

★女房にはめぐまれず

サイタロウは，女房運にめぐまれませんでした。最初にきたメス（昭和31年5月）とは大ゲンカをやらかし（No. 77—昭和31年6月号—参照），彼女は7カ月後に死にました。二度目にきたのがいまいるルル（昭和32年6月来園）です。サイはめあわせることが困難な動物だといわれますが，なんとか一緒にさせようとたびたび試みたにもかかわらず（No. 142—昭和36年11月号—参照），結局サイタロウは独身を通しました。今年あたりは……と望みをかけていたのですが，ついに果せず，悔いを残しました。死体は病理解剖に付され種々のデータを残し得たことはせめてものなぐさめです。

★発病から死まで

病気といえば，昭和28年と今年の1月に赤色の尿をして，原因を調べましたが，採血や充分な検査ができないのではっきりしませんでした。ところが隣室のルルが同じような赤い尿をして（昭和34年）採血・検査の結果，ワイル氏病であることがはっきりし，サイタロウにも感染しているのではないかと考えられました。今回は10月22日にこの特徴的なブドー酒のような赤い尿をしましたので，早速東大に相談をし，ストレプトマイシンやペニシリン等による治療をはじめました。24日にはいく分回復の傾向がみられ，ホッとしましたが，翌日から便秘気味になり，苦しそうでした。そこで大量の食塩水で浣腸を試み，少しは効果もあったようでしたが，便秘はなおも続き，25日の午後からは，嘔吐が見られるようになりました。サイは元来ウマににており，嘔吐することは至極困難な動物ですので，これは大変悪い前兆と思われました。そこで飼育係と獣医は徹夜の看病を続けましたが，嘔吐はなかなかとまらず，26日午前1時ごろ，突然大量の胃内容をはき，横倒しになりました。すぐに応急処置をしましたがすでに窒息しておりました。

解剖の結果，盲腸に重度の便秘，小腸にコブシ大の血腫が3つもできており，この原因がはたしてワイル氏病であるかどうか現在東大に依頼して検査中です。

解剖の上で興味ある点は，腸管の長さがわずかに13メートル弱で，体長の約4倍しかなく，このことが消化器系の病気を起しやすいひとつの素因かとも思われます。

（上野動物園飼育課）

The Death of a Rhino

by T. Nishiyama, S. Nakagawa

Our present Director Mr. Juro Hayashi brought a male Black Rhinoceros back from Africa in August, 1952. This was Ueno Zoo's first rhino, and was named "Saitaro". He was popular with visitors, but died on Oct, 27 of this year.

本と映画

大町山岳博物館　編

「雷　鳥　の　生　活」

第一法規出版KK発行　1,800 円

ライチョウの生活については，本誌昨年 12月号に，大町山岳博物館の平林学芸員による記事で 紹介されれいます。本書は，平林学芸員のほか，多くの方々の努力で 調査がなされたライチョウの観察記録を 集大成したものです。数多くのすばらしい写真が，見る人の目を たのしませますが，本書は単なる写真集ではなく，大町山岳博物館，信州大学 などが中心となり，地元の山の関係者，自衛隊，新聞社 関係者などの数多くの人の協力と，鳥の学界あげての指導のもとに完成された，世界的な研究報告 ともいえるものです。B 5 版 170 頁，全アートという豪華本にもまして，その内容からも，1,800円という定価は，決して高いものではないと信じます。　(Pen)

動物園親代り日記

中川志郎・増井光子共著

サンケイ・ヒットブックス，250 円

動物園の動物たちは野生とちがって 不自然な生き方を強いられていますから，親代りとなって 面倒をみる飼育係や獣医の苦労は大変です。観客のお相手をしている 動物たちを支えているのは，いわば裏方さんともいえるこれらの人々の，膨大な努力の賜だといえるでしょう。この書は 上野動物園でおこった事実やエピソードがぎっしりとつめられ，“飼育課ウラ話” の決定版ともいうべきものです。お産や死，人工哺育・脱出事件，またマスコミでも 問題になった結核騒動なども，そのほぼ全貌が明らかにされています。全編にみちる ユーモアとペーソス，心あたたまる情感に，思わず 最後まで一気に読まされてしまいます。

会員のページ

セキセイインコの病気についておたずね

大　木　彬　彦

6羽のセキセイインコを飼っていますが，今年8月に入手した黄色い個体の足指が，目だってふとく，カサカサした白い皮にびっしり覆われているのに気づきました。見たところ，別段変ったこともなく，羽毛もツヤツヤとして元気です。しかし，この2～3日，ちょっと変ったことに気づきました。マブタに，以前にはなかった白い皮質のものが生じたようで，それは，足指のビッシリした皮質のものと同じように見えます。マブタをとじるのがちょっと難儀そうです。もし病気なら，どのような手あてが必要でしょうか。

（新宿区牛込矢来町興銀アパート）

<おこたえ>

脚の変状も上まぶたの白いものも，オウムや カナリアによく寄生するカイセン虫によるものです。他鳥にも うつりますから別にして飼ってください。

治療法は，患部を微温湯でしめし，BHC または DDT をすりこめば割合に簡単になおります。また ウィキンソン軟膏も効果的ですし，硫黄剤，ムトウハップの原末なども 水にといてすりこんでやればなおります。

上野動物園　中川志郎

来年度の“どうぶつと動物園”

10月8日，愛好会幹事会が開かれ，来年度の例会・見学会の計画や，どうぶつと動物園の内容について検討しました。さらに17日に開かれた編集会議で，来年度の大要がきまりましたのでお知らせします。

(1) 2ページに「動物と私」の題で，従来の「動物サロン」的な記事を入れる。

(2)広告8ページ中2ページを主に子どもを対象としたページにする。

うち1ページには，おなじみの漫画家根本進さんの「クリちゃん」に登場してもらう（根本さんも大いにはりきっておられます。どうぞご期待ください）。

また1ページは「飼いかたシリーズ」に代るものとして，小中学生の飼育・観察記録をのせる。

(3)動物園に飼われている動物についての，解説記事を2ページほどあらたに入れる。

内容にご期待ください。

＝表紙説明　クラハシコウ＝

昭和36年5月，多摩動物公園に到着したものです。くちばしは赤く，鞍のかたちをした帯は黄色いというはでな色どりの持主ですが，カラーでお眼にかけられないのは残念。本文 14～17 ページを参照してください。

<11 月号訂正>

11月号 23 ページ中，新水族館の入館料こども 50円とあるのは，10円の誤まりでした。おわびして訂正いたします。

<編集を終えて>

○●…今年も本号で終りです。ふりかえってみると，多摩ではライオン園開園，上野の新水族館開館と，多事な1年でした。ページをめくると，どの号も編集の未熟さばかりが目につき，冷汗三斗のおもいです。

○●…来年1月号は，水族館とヘビの特集号にする予定です。ご期待ください。

○●…それでは皆様，よい新年をお迎えください。(K)

新入会員のみなさん

(品川区) 岡田 修，(世田ケ谷区) 坂本泰子，野口六之助，志賀和子，(杉並区) 秋山曜子，(練馬区) 石神井西中学校，(荒川区) 竹部之祥，(北海道) 村山 豊，(神奈川県) 田口資生，奈良義和，谷内医科病院，(兵庫県) 蓑美美，(熊本県) 真野直克，(鹿児島県) 深川信江